

みんなを支えている税金

留萌市立港南中学校 三年 田辺 七海

二〇一九年、この年に、消費税が十パーセントに上がった。消費税は、私たちにとってとても身近なものであり、小さい頃からずっと払ってきているものである。そんな消費税が上がった時、私は、消費税が上がらないで欲しかった。消費税のために自分の大切なお金を払わなければならないのは嫌だな、などといった悪いイメージをもっていました。「なぜそこまでして、税を引き上げなければならないのか。」そんなことを疑問に思った私は、私たちが納めている税金は何に使われているのか、インターネットで調べてみた。すると、一番多かったのは社会保障費、二番目は国債費、三番目は地方交付税交付金だった。社会保障費は、私たちが安心して生活していくために必要な公的サービス提供のために使われているお金のことだ。主に、「医療」や「年金」、「介護」などに使われている。消費税が十パーセントに引き上げられたのも、少子高齢化による社会保障費の増加により、社会保障制度を維持するための安定的な財源を確保するためだからだ。国債費は、国の借金を返したり利子を支払ったりするために使われているお金のことだ。現在の国の歳出の中で、大きな割合を占めている。国債は増え続けている上に、先程述べた少子高齢化のことも併せて考えると、このままでは、将来の負担が大きくなってしまおうと考えられる。地方交付税交付金は、国が地方公共団体の財政力を調整するために使われているお金のことだ。警察、消防やゴミ処理など、自分たちの身近なところでも多く使われている。そして、私が一番身近にあると感じた使い道が、文教及び科学振興費だ。これは教育や科学技術の発展のために使われているお金のことだ。国の歳出の中では、割合が大きいわけではない。しかし、中学生一人当たりの年間教育費の負担額を見ると、約百六十七万円だった。私はこの金額を見て驚いた。私たちが学校に行くにはこんなにお金がかかっていることを、今まで分かっていなかったからだ。それと同時に、このお金には関係ない大人の方を含め、たくさんの人たちが、私たちのためにお金を払ってくれていることへのありがたみを感じた。税金がなければ、学校にも通えていないし、教科書を使って勉強もできていない。今の自分があるのは、税金と税金を払ってくれているみんながいるおかげだと実感した。他にも、税金にはたくさん種類があり、どれも私たちが生きていく上で必要不可欠なものである。例えば、いつでも水道を使うことができたり、安全に通勤や通学ができたりする。これらができるために必要な、上下水道や道路の整備にも税金が使われている。このように私たちが普段暮らしている中でも税金の存在は大きい。私は、今まで、税金の使い道を理解するまでは、あまり良いイメージをもっていなかった。今でもそのような人は多いと思う。しかし、今回調べてみて、税金はみんなを支えてくれる大切なものだと思えることができた。これからは、みんなが税金の理解を深め、税金に対して感謝の気持ちをもつことができればいいと思った。そして、税金でお互いを支えあっている社会にしていきたい。